

<取扱注意>

保護林区分		署等名	保護林名称	面積	設定年	設置目的	調査結果の概要	検討委員会における評価	(参考)局の実施予定等
植物群落保護林	17	渡島	国縫保護林 (アカエゾマツ南限)	33.25	S52	アカエゾマツ林は黒松内低地域を境として、それより南には群落としての分布は見られないが、国縫保護林のように、ブナに囲まれて生育するアカエゾマツは岩手県の早池峰と共に植物群落の形態として貴重な林分である。	いずれのプロットともトドマツが優占していた。アカエゾマツは、胸高断面積で見ると、4～17%程度の値であった。 高木層は17m。高木層、亜高木層は、トドマツ、アカエゾマツ、ナナカマド、ミズナラ、ブナ等、針広混交して見られる。低木層は、オオカメノキ、ノリウツギ、イタヤカエデ等が見られる。草本層は、ササが優占度5で繁茂しており、その他ツルシキミ、エゾユズリハ、ハイヌガヤ等が見られた。 アカエゾマツは、大径木(直径40cm級)はみられるが、低木や稚樹は余り見られなかった。		群落保護林として手を加えず自然の推移に委ねたい。
	18	渡島	若松保護林(トドマツ、落葉広葉樹)	66.53	S52	ブナ帯において、天然林トドマツが幅の広い尾根を中心に分布している林分。	2つの調査プロットとも、トドマツが優占していた。胸高断面積合計で約30～40%の値であった。 高木層は20m。高木層、亜高木層ではトドマツの他、ダケカンバ、ミズナラ、ブナ、ハウチワカエデ等が、低木層では、トドマツ、オオカメノキ、ハウチワカエデ、ブナ等が見られた。草本層ではチシマザサが優占度4で繁茂し、ササが薄いところでは、トドマツのほか、ブナ、ミズナラ等の稚樹や、ハイヌガヤ、ツルシキミ、エゾユズリハ等も見られた。		群落保護林として手を加えず自然の推移に委ねたい。
	19	渡島	種川保護林(トドマツ、落葉広葉樹)	12.88	S52	ダケカンバ帯に近いところに分布しているトドマツ及び広葉樹の混交林で、人工林との対照として貴重であり、黒松内以南でこのような森林分布は見られない。	いずれのプロットともダケカンバ、トドマツが優占していた。胸高断面積で見ると、ダケカンバは44～79%、トドマツは7～32%の値であった。 高木層は18m、トドマツ、ダケカンバが混生していた。亜高木層では、ナナカマド、ホオノキ、ダケカンバ等が、低木層ではヒメモチ、ノリウツギ等が見られた。草本層は、チシマザサが優占度5で繁茂しており、その他ホソバトウゲシバ、ザゼンソウ等が見られた。 トドマツ、ダケカンバは、中～大径木が点在。ダケカンバは小径木が群状に見られたが、トドマツの稚幼樹はあまりみられなかった。		群落保護林として手を加えず自然の推移に委ねたい。
特定地理等保護林	20	渡島	美利河温泉鍾乳洞保護林	5.00	H12	温泉カルストであり鍾乳洞を形成していることから、その特異な地形、地質等の保護を図り学術研究に資する。	調査の結果、調査日の利用者数は全体で4人であった。 対象となる保護林に隣接する温泉(第3セクター クアブラザ)へのヒアリングによると、来客の大半は高齢者であり、温泉入浴を目的とする利用者が大多数であり、釣り、登山、山菜採りなどについては少数であることであった。温泉利用者は、温泉プームでH11年頃一時もりかえしたが(約1100人/年度)、不景気の影響、今年は燃料高等による影響があり、設立(昭和61年)当初から利用客は減少傾向が見られている(約700人/年度)。また、施設までの道路、施設内の遊歩道、登山道が荒れ気味とのことである。 一昔前はドライブついでに客が多く、ゴミ捨て、植物の盗掘、魚の乱獲があったが、近年は、利用者のマナー向上により、環境が良くなりつつあるとのことである。		現状にて問題は発生していないと考える。
林木遺伝資源保存林	21	日高北部	北海道エゾマツ23	14.58	H3	エゾマツの群生地を保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。	いずれのプロットとも、エゾマツ、トドマツが優占しており、胸高断面積合計で見ると、エゾマツは40～50%近くを占めている。 高木層は24m、亜高木層も含めエゾマツが優占する。林床はクマイザサが優占度5で繁茂しているなか、倒木や伐根等にエゾマツ、トドマツの稚樹が見られた。草本層では、その他ワラビ、クサソテツ、スゲ類等がみられた。 シカの食害痕有。		現状にて問題は発生していないと考える。
	22	日高北部	北海道シウリザクラ22	8.13	H3	シウリザクラの群生地を保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。	いずれのプロットとも、シウリザクラのほかトドマツ、エゾマツ、ヤチダモその他の広葉樹が見られた。 胸高断面積合計で見ると、シウリザクラは15～50%近くを占めている。 高木層が24mに達し、トドマツ、ダケカンバ等も一部混在する。亜高木層もシウリザクラが優占。林床では、クマイザサが優占度5で繁茂し、シウリザクラの稚樹はあまり見られなかった。草本層では、その他ジューモンジシダ、タチツボスミレ等見られた。 シカの食害痕あり。		シカの食害があることからネット巻き等母樹保護の対策を検討したい。
	23	日高南部	北海道アオダモ28	6.67	H3	アオダモの群生地を保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。	いずれのプロットとも、アオダモのほか、ミズナラなどの多樹種が見られた。 胸高断面積合計で見ると、アオダモは10%を下回っており、稚樹は少なかった。 高木層は15m、アカシデ、アオダモ、ミズナラ等見られる。亜高木層は、アカシデ、サワシバ、イタヤカエデ等の小中径木が比較的多い。アオダモは、10～20cmの中径木が点在する。林床はスズタケが優占度5で密生しており、その他アオダモ、ツルアジサイ、ヤマウルシ等みられた。		設定当時に比べてアオダモの材積比率、平均胸高直径とも増加しており、アオダモが順調に生育してきているものと考えられ、自然の推移に委ねたい。
	24	日高南部	北海道カシワ25	3.88	H3	カシワの群生地を保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。	いずれのプロットとも、カシワの優占率は高い。 胸高断面積合計で見ると、カシワは90%以上を占めている。一方、カシワの稚樹は確認できなかった。 高木層は10m、カシワが優占度5で生育する。カシワの直径は30cmを越えるものもある。亜高木層ではキタコブシ、カンボク等が、低木層はエゾニワトコ、ミツバウツギ等が、草本層では優占度5でミヤコザサが見られた。		保安林であるばかりでなく、孤立した国有林であるため更新補助作業等は困難である。当面は自然の推移に委ねたい。
	25	日高南部	北海道カツラ29	0.67	H3	カツラの群生地を保存し、主要林業樹種としての林木遺伝資源とする。	対象面積は0.67haと比較的小面積。対象樹種のカツラは、ほぼ全域に分布している。いずれのプロットとも、カツラの優占率は高い。一方、カツラの稚樹はあまり確認できなかった。 高木層は30～35m、カツラが優占し、シウリザクラ、イタヤカエデが混生する。亜高木層は、カツラのほかイタヤカエデ等が見られた。林床はは比較的是すいており、草本層ではクサソテツ、ヤマドリゼンマイ等が見られた。 シカの足跡有。		早急な対応が必要な状況とは言えないが、将来に向けて稚樹育成のため試験調査など検討したい。